

ナリ、形大ニシテ内虚ス、後ニ列スル四名ハ皆嫩根ナリ、形細長ニシテ内實ス、コレヲ藥舖ニテ軸
様ト云、朝鮮ハ唐ヨリ黄色鮮カニシテ堅實、苦味ウスシ、故ニ下品トス、朝鮮ノ中ニモ唐様ト呼モ
ノハ、形色混ジヤスシ、此亦苦味ウスシ、ソノ眞ノ黄芩ト呼ブ者ハ、即朝鮮ノ種ヲ栽ルモノナリ、和
州宇陀ヨリ出ス、根色鮮ナレドモ、苦味ウスクシテ脂多シ、最下品ナリ、其苗高サ二三尺、一根ニ叢
生ス、葉ハ千屈菜ノ葉ニ似テ毛茸アリ、兩對ス、秋ニ至リ莖末ニ穂ヲナス、長サ四五寸、花ノ長サ一
寸許、本ハ細筒ニシテ端ハ五瓣ニ分レ、コラセウモンノ花ノ如ニシテ紫色ナリ、又淡紫色、又青色
ヲ帶ルモノ、又白色アリ、白色ノモノハ稀ナリ、花後莖中ニ四ノ小黑子アリ、子熟シテ苗枯ル、子ヲ
種テ生ジヤスシ、根ハ年ヲ經テ枯レズ、然レドモ久モノハ内腐テ枯レ易シ、又一種古ヨリ和ノ黄
芩ト呼來ル草アリ、サ、ヤキグサトモ、チヤンバギクトモ云、是博落廻ナリ、毒草類、葶麻ノ附録ニ
出、ソノ根ノ形色微黄芩ニ似タリ、故ニ藥肆ニテ黄芩ニ雜ユ、コレヲサシコミト稱ス、此草ハ山中
ニ多シ、根ハ肥大ニシテ蠹蛀シテ、内空ニナリタルモアリ、然レドモ此根ハ極テ乾スト雖ドモ猶
軟ナリ、黄芩ノ堅脆ナルニ異ナリ、

〔草木育種後編下品〕黄芩わきん 草本 和名やまひ、らぎ和名抄 俗にこがねやなぎといふ、花に白と碧とあり、享保年中、將翁先生部阿甲州より採り得、官園に上る、又漢種も享保年間、唐山より來る、予部喜阿任會津山中にて自生のものを得たり、形狀皆同じ、根腐りて上品なり、春分の比畦に種子を布て生ず、其年に花實あり、當時江戸近郊にても多く作る、是を眞の黄芩といふ、作り方悪しき故に、藥用に下品なり、山中赤土の地を選び、是に畦を作り、草綿子わたこね糠の類きり雜へ、是へ種子を布き、其後は糞水も少しも澆ぐ事なく、七八年過堀り出し見るべし、盧頭腐りてよし、世間にて作るは斤兩の減ずる事を恐れ、糞汁多く用ひ、三年にして堀る故に功なし、又山中野地の分ちなく、ふり蒔にして數十年の後採り得は、自然生の如く彌上品なるべし、